

第9回究企画調整会議研究運営部会 議事概要

(注：本会議は個別具体の研究者や研究課題名に言及した議論が行われることから、非公開で行った。

本会議概要についても、それらが特定されない形での公表とする。)

1 日時：平成24年2月6日(月) 10:40~17:00

2 場所：食品安全委員会22階中会議室

3 出席者(8名)五十音順

圓藤 陽子(独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
勤労者医療総合センター・産業中毒センター長)

尾崎 博(国立大学法人東京大学農学部教授)

鬼武 一夫(日本生活協同組合連合会組織推進本部安全政策推進室室長)

熊谷 進(食品安全委員会委員長代理)

小泉 直子(食品安全委員会委員長)

品川 邦汎(岩手大学特任教授)

長尾 拓(食品安全委員会委員)

◎廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員)

(◎：座長)

4 欠席者(0名)

4 議題

(1) 中間評価のヒアリング審査について

(2) その他

5 議事

(1) 中間評価のヒアリング審査について

食品健康影響評価技術研究の継続課題(平成22年度採択課題8課題、平成23年度採択7課題、合計15課題)について、ヒアリング審査を2月6日と2月8日の2日間にわたって実施することとし、2月6日分として、平成22年度採択課題5課題、平成23年度採択2課題、合計7課題を実施した。

ヒアリングは1課題につき、実施課題の主任研究者による発表20分間、質疑応答10分間、評価委員間の議論5分間、評価票記入5分間の合計40分間で行った。

冒頭、評価委員から現行の中間評価は、書面審査とヒアリング審査を行い、それぞれ評価票を作成することとしているが、全ての継続対象課題についてヒアリング審査を行うのであれば、両審査をまとめて、1つの評価票を作成してもかまわないのではないかとの提案があり、次回の中間評価に向けて検討することとなった。

ヒアリング審査の実施の概要は以下のとおり。

① 課題番号1007 主任研究者 広瀬明彦

「用量反応性評価におけるベンチマークドース法の適用に関する研究」

・ベンチマークドース法の活用の方向性について議論があった。

② 課題番号1002 主任研究者 那須民江

「フタル酸エステルの生殖・次世代影響の健康リスク評価に関する研究」

・胎児暴露に関する今後の研究の見込みについて議論があった。

- ③ 課題番号 1005 主任研究者 堤康央
「食品中ナノマテリアルの腸管吸収及び体内動態の特性を利用したリスク評価手法の開発」
・サブナノマテリアルの体内吸収性について議論があった。
- ④ 課題番号 1107 主任研究者 登美齊俊
「胎児移行性における種差を反映したヒト胎児毒性リスク評価手法の開発」
・ヒト胎盤透過性の解析データなど基礎データの収集方法について議論があった。
- ⑤ 課題番号 1003 主任研究者 佐藤薫
「食品中化学物質への胎生～新生期暴露が情緒社会性におよぼす影響評価手法の開発」
・動物データのヒトへの外挿可能性、披検物質の選定について議論があった。
- ⑥ 課題番号 1008 主任研究者 蜂須賀暁子
「ナノ物質の経口暴露による免疫系への影響評価手法の開発」
・データの解釈、整理についてナノ物質のアジュバンド活性評価結果における議論があった。
- ⑦ 課題番号 1105 主任研究者 吉田緑
「日本における農薬等の急性参照用量設定のためのガイダンス作成に関する研究」
・農薬に関する急性参照用量の設定の可能性について議論があった。

以上